

活 動 報 告

日本語・日本事情

中川正弘

西条キャンパスの初級クラス

西条キャンパスにある当留学生センターで日本語の初級を受講する学生は多い。日本語研修コースと教員研修コースではそれぞれ同じ留学制度で来日した学生達が半年の集中コースでほとんど生活を共にしながら初級日本語を勉強している。

在籍者の資格が限定されているこれらの集中コース以外で、初級の日本語を勉強したい者は西条キャンパス（東広島）と千田キャンパス（広島）で開講している日本語・日本事情の初級クラス（日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと年によってⅣ）を受講することになる。大学の移転が進むにつれ、どちらのキャンパスも初級クラスには状況の段階的変化があり、細かく観察する必要も感じるが、今回は西条キャンパスの初級クラスのみ現状をお知らせしたい。

西条キャンパスに移転を完了している学部は、92年12月現在、工学部、生物生産学部、教育学部、理学部の4学部であり、こちらで初級日本語を学んでいるのはこの4つの学部
の学生あるいは客員研究員ということになる。この者たちは、同じ初級日本語を学んでいると言っても先の集中コースの者たちとは学習の目標も条件もだいぶ違っている。

たとえば、日本語研修コースには英語を知らない漢字圏の学生が来ることはない。教員研修コースでは、このグループ自体がそう大きくないということで、年によっては英語を使える留学生を多数派として、その中に英語を使えない中国人学生と英語をほとんど使えない中南米の学生を同時に迎えなければならないこともある。そうなると、媒介言語としての英語の使用もごく限られた場合だけとなるなど授業運営においてもさまざまな問題が生じる。ただし、集中コースで日本語を勉強している間、生活は日本語学習一色とっていいほどになり、そういった問題を解決していく機会もまた多く持てはする。

他方、日本語・日本事情の初級クラスは対象とする学生を特に限定してはいない。今年度は前期後期とも、教科書をリレーする週3コマの授業として開講しており、前期8名、後期7名の学生が受講しているが、出身国がいろいろというのは先の二つの集中コースと同じだが、学内での所属、身分もまちまちであるなら日本語学習の目標も条件も違っている。

前期8名の内訳は、台湾－3名、中国－1名、インドネシア－1名、バングラデシュ－1名、韓国－1名、グルジア－1名、また、後期7名の内訳は、ヨルダン－1名、ドイツ－

1名、ホンジュラスー1名、フィリピンー1名、タイー1名、ネパールー1名、中国ー1名である。身分としては、半年、あるいは1年後に理系の大学院を受験するつもり of 研究生であったり、すでに大学院で研究生活に入っており、数年以上日本で生活する予定の者であったり、また客員研究員で半年、あるいは1年で帰国する予定の者など、さまざまである。

彼らに対して、それぞれの目標、条件に応じたクラスが設置できれば理想的だが、それほど的人数でもなく、各期ごとに傾向が異なるようではとてもそんな対応などできないのが現実だ。そんなクラスで勉強する学生たちは、他の活動（主に専門研究に関わる）も忙しく、一人二人入れ代わりで授業を抜けることも多い。だが、出席できなかったところは自宅学習で補いながらきわめて熱心に勉強を続けている。授業が週3コマと少なくとも、反面、研究室で日本人と接する時間が長い者も多いようで、集中コースと比べれば分量もはるかに少ない教材を大事に何度も繰り返し練習していることも相まって相当の進歩を見せている。

前期に初級を学んだ者の内、大学院に合格したことで専門研究に重点を置き、日本語の勉強はもう自分で片手間にできるようになった者をのぞいて半数以上が後期も中級のクラスで勉強を続けている。また、この後期に初級を勉強し始めた者の内半数は後期終了の3月に帰国する予定と聞いているが、のこりの者は次年度も中級で日本語の勉強を続けることを希望している。帰国する者たちには本国で日本語の勉強を続けるのに必要な基礎訓練を積んで帰ってもらいたいと思うし、日本に残る者たちには研究生活との配分がうまく設定でき、安定したペースで日本語の勉強を続けてもらいたいと願っている。

日本語・日本事情授業科目

| 授業科目 | 単位数 | 担当教 | 授 業 内 容 | 学期 | 備 考 |
|------------------|-----|--------------|------------------------------------------------|----|----------------|
| 日 本 語 I 初 級 | 1 | 深 見 | 日本語学習経験のほとんどない学習者を対象に基礎から日本語を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 1 | 内 藤 (非常勤) | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 II 初 級 | 1 | 中 川 | 日本語学習経験のほとんどない学習者を対象に基礎から日本語を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 1 | 渡 部 (非常勤) | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 III 初 級 | 1 | 今 田 | 日本語学習経験のほとんどない学習者を対象に基礎から日本語を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 1 | 後 藤 (非常勤) | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 IV 初 級 | 1 | 未開講 | 日本語学習経験のほとんどない学習者を対象に基礎から日本語を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| 日 本 語 中 級 I-1 | 2 | 橋 本 (非常勤) | 日本語初級を終わった程度の学習者に、読解・文法指導を行う。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 2 | 後 藤 (非常勤) | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 中 級 I-2 | 2 | 犬 槻 (非常勤) | 日本語初級を終わった程度の学習者に、読解・文法指導を行う。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| 日 本 語 II 中 級 | 2 | 縫 部 | 日本語初級を終わった程度の学習者に、作文・会話の指導を行う。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 2 | 未開講 | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 III 中 級 | 2 | 浮 田 | 日本語初級を終わった程度の学習者に、小説・随筆の講読の指導を行う。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 2 | 古 浦 (非常勤) | 有名な日本文学の作品(短編)を教材として、日本語の読解力を養成しつつ日本文化に触れてもらう。 | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 IV 中 級 | 2 | 下 村 (非常勤) | 日本語中級I~IIIを終えた程度の学習者に、読解・文法・口頭表現・文章表現を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| 日 本 語 V 中 級 | 2 | 多和田 | 言葉の意味を「辞書的」に考えるのではなく、文、文型、文脈を通して把握する訓練をする。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 VI 中 級 | 2 | 浮 田 | 日本語初級を終わった程度の学習者に、読解・文法指導を行う。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| | 2 | 未開講 | | | |

| 授業科目 | 単位数 | 担当 教 官 | 授 業 内 容 | 学期 | 備 考 |
|------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------|
| 日 本 語 上 級 I | 2 | 深 見 | ニュースの聴解をとおして時事日本語に特有の語彙、表現法を習得させる。あわせて日本語を聞きながらメモを取る技術を養わせる。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 上 級 II | 2 | 未開講 | 読解・スピーチ・聞き取り・上級文法・作文などを指導する。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | 2 | 奥 田 | | 後 | |
| | 2 | 相 原 | | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| | 2 | 多和田 | | 後 | |
| 日 本 語 上 級 III | 2 | 中 川 | 受講者に書いてもらった作文を教師の手による書き直し版と比較することでの差手法の理解を正しつつ、二つの日本語の浮異をあらゆる角度から検討し、そこに浮かび上がる日本語、日本文化、日本社会の特質を総合的に考察する。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 上 級 IV | 2 | 深 田 | 日本社会のあり方を題材とした文章の読解を通して日本語の語彙、表現法の習得をめざしている。あわせて、作文指導を行うことを通して、自己の意見を文章化する力を養うことをめざしている。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 語 上 級 V | 2 | 大 槻 (非常勤) | 読解・スピーチ・聞き取り・上級文法を教える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 事 情 I | 2 | 水 町 | コンピューターでの日本語使用練習を通して日本語を考える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | 2 | 未開講 | | 後 | |
| | 2 | 柳 澤 (非常勤) | 日本の文化及び習慣等について考察する。 | 前 | 東 千 田 キャンパス |
| 後 | | | | | |
| 日 本 事 情 II | 2 | 浮 田 | 日本人の発想の特徴や日本文化・社会の構造と特色を講義・討論する。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 事 情 III | 2 | 高 永 (非常勤) | 日本の文化及び習慣について考察する。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日 本 事 情 IV | 2 | 小 野 (非常勤) | 社会問題の考察を通して日本を考える。 | 前 | 西 条 キャンパス |
| | | | | 後 | |
| 日本語特講 | 15 | 浮 田 縫 中 大 深 大 見 大 槻 (非常勤) 野 小 (非常勤) 部 渡 (非常勤) 本 橋 (非常勤) | 日本語をほとんど知らない学生に基礎からの日本語を集中的に教える。 | 後 | 教員研修留 学生のための プログラム |
| 日 本 文 化 | | 浮 田 多和田 中 川 深 見 | 日本語・日本文化研修生を対象に、日本文化のさまざまな側面についてより深い知識と理解を得させる。 なお、講義に合わせて随時実地研修も行う。 | 前 | |
| | | | | 後 | |

日本語日本文化研修プログラム

広島大学では、昭和60年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れているが、昭和62年度より特別経費の交付を受け、「日本語日本文化研修プログラム」を開始し、現在に至っている。このプログラムは、日本語研修（「日本語日本事情」で開設されているクラスから選択）、指導教官のもとでの課題研究、日本文化特別講義・見学プログラムからなる。平成3年度後期および平成4年度の前期の日本文化特別講義・見学プログラムの概要は、次の通りである。

なお、研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出することになっている。留学生センターではそれらのレポートをまとめレポート集として刊行する。

平成3年度後期

- 10月25日(金) 見学 原爆資料館、平和公園、青少年センター
- 11月1日(金) 見学 映像文化ライブラリー、広島城、縮景園
- 11月8日(金) 講義 現代日本の婦人問題 (IWAD 平田富美子)
- 11月15日(金) 見学 宮 島
- 11月20日(水) 講義 人形浄瑠璃 (総合科学部 青木孝夫)
- 11月22日(金) 講義見学 西条の歴史 (郷土史家 飯田米秋)
- 12月6日(金) 講義実技 書道 (学校教育学部 森井一幸)
- 12月13日(金) 講義 日本の建築 (工学部 鈴木 充)
- 12月20日(金) 講義 日本の方言 I -概説- (広島文化女子短期大学 高永 茂)
- 1月10日(金) 講義見学 陶芸 (陶芸家 川原浩二)
- 1月17日(金) 講義 日本の民話 (RCC 栗原秀雄)
- 1月31日(金) 講義 日本の方言 II -沖縄方言- (教育学部 町 博光)
- 2月6日(水) 講義 近世文学 (教育学部 浮橋康彦)
- 2月21日(金) 見学 郷土資料館
- 2月22日(土)-23日(日) キャンプ (似島)

平成4年度前期

- 5月8日(金) 見学 仿古堂(筆工場)
- 5月15日(金) 見学 岩国城・錦帯橋
- 5月22日(金) 見学 そごう坂物流センター
- 6月7日(日) 見学 花田植え
- 6月12日(金) 見学 マツダ
- 7月3日(金) 見学 キリンビール工場
- 7月11日(土)-12日(日) キャンプ (広島市青少年野外活動センター)
- 9月11日(金) 修了式・懇談会

教員研修留学生コース（1991年10月～1992年9月）

研修プログラム

I. 研修プログラム概要

A 教育学

- 1) 教育学、心理学、教科教育学に関する英語による講義演習。(一年)
- 2) 授業参観、特別活動見学をはじめ、その他各種の教育施設、社会教育の見学。
(一年)
- 3) 課題研究—指導教官の下で、各自の研修テーマを研修。(一年半)

B 日本文化、日本事情 (一年)

- 1) 日本文化、社会に関する多方面からの英語による講義、実習。
- 2) 文化活動に参加、各種文化施設の見学。

C 日本語教育

- 1) 日本語特講（初級～中級レベル）。(6カ月)
- 2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス。(学生の能力、必要に応じて)

II. 研修プログラム内容

A 教育学

1) 講義・演習

- 1991/11/7 (木) 「日本の教育制度」教育学部教授 青木 薫
11/13 (水) 「日本の幼児教育」教育学部教授 祐宗省三
11/14 (木) 「日本の初等・中等教育」教育学部助教授 安原義仁
12/11 (水) 「各国の教育事情Ⅰ」教育学部助教授 二宮 皓
1992/1/17 (水) 「日本の高等教育」留学生センター助教授 田畑佳則
1/23 (木) 「日本の教員養成」教育学部教授 吉田正晴
2/19 (水) 「各国の教育事情Ⅱ」教育学部助教授 二宮 皓

2) 学校・教育施設見学

- 1991/10/25 (金) 広島市青少年センター
11/1 (金) 広島市映像文化ライブラリー
11/22 (金) 広島大学附属中学校・高等学校
11/27 (水) 広島大学附属幼稚園
11/28 (木) 広島大学附属小学校
12/6 (金) 広島市中央公民館・広島市立中央図書館

- 12/7 (火) 広島県教育委員会
 1992/2/7 (金) 尾道商業高等学校
 2/13 (金) 広島市教育センター
 6/3 (木) 広島市立広島養護学校
 6/16 (火) 呉工業高等専門学校
 6/22 (月) 広島商船高等専門学校
 7/2 (木) 広島朝鮮中・高級学校

B 日本文化・日本事情

1) 講義・演習

1990/12/5 (木) 「日本国憲法」法学部教授 阪本昌成

2) 見学

1990/10/25 (金) 平和記念公園・原爆資料館

11/1 (金) 広島城・縮景園

11/15 (金) 宮島

1991/2/7 (金) - 2/8 (土) 尾道市

5/29 (金) 福山市 (福山城・鞆の浦)

C 日本語教育

1) 日本語特講 (1991年10月～1992年2月。週平均30時間)

| | 9:45-10:30 | 10:50-12:20 | 13:10-14:40 | 15:00-16:30 |
|---|------------|-------------|-------------|-------------|
| 月 | 中川 | 渡部 | 渡部 | 深見 |
| 火 | 多和田 | 小野 | 多和田 | 小野 |
| 水 | 中川 | 中川 | 橋本 | 大槻 |
| 木 | 深見 | 大槻 | 深田 | 多和田 |
| 金 | 中川 | 中川 | 深見・中川・多和田 | |

日本語講師

| | |
|--------|---------------|
| 多和田眞一郎 | 広島大学留学生センター教授 |
| 中川正弘 | 広島大学留学生センター講師 |
| 深見兼孝 | 広島大学留学生センター講師 |
| 深田昭三 | 広島大学教育学部講師 |
| 大槻温子 | 広島大学教育学部非常勤講師 |
| 小野由美子 | 広島中央女子短期大学講師 |
| 橋本敬司 | 広島大学教育学部非常勤講師 |

渡部浩見

広島大学教育学部非常勤講師

- 2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス（1992年4月～9月。能力と必要に応じて選択）

D その他

1991/2/22 (土) - 2/23 (日) 国際交流活動研修会

(広島市似島臨海少年自然の家)

2/25 (火) - 2/27 (木) 研修旅行 (萩市・津和野町)

2/29 (土) - 3/2 (月) スキー研修 (大山)

6/12 (金) - 6/14 (日) 青年国際セミナー (国立江田島青年の家)

7/11 (土) - 7/12 (日) 青少年との国際交流 “BIG JAMBOREE”

(広島市野外活動センター)

日本語研修コース

〔修了者〕
第十四期 (1992年4月～92年9月) (19人)

多和田 眞一郎

| 氏名 | クラスでの呼び名 | 国 | 生年 | 専攻 | 専門教育 |
|-------------------------------------|----------|----------|------|---------|--------|
| Lopes, Silvia Amelia Teixeira | シルビア | ブラジル | 1969 | 国際関係学 | 広島大学 |
| Nguyen, Luc Tien | ルクティエン | ベトナム | 1957 | 歴史学 | 〃 |
| Aye, Aye Cho | チャー | ミャンマー | 1961 | 教育学 | 〃 |
| Vielma, Neida Josefina | ネイダ | ベネズエラ | 1960 | 教育学 | 〃 |
| Visoiu, Ion | イオン | ルーマニア | 1958 | 国際関係論 | 〃 |
| Ko, Ko Myint | ココミントウ | ミャンマー | 1959 | 地質学 | 〃 |
| Razee, Saeid | サイド | イラン | 1960 | 化学 | 〃 |
| Balu, Varghese | バル | インド | 1960 | 造船学 | 〃 |
| Yamaguchi, Celso Hiroshi | セルソ | ブラジル | 1969 | 電気工学 | 〃 |
| Bainotti, Alberto Emilio | アルベルト | アルゼンチン | 1960 | 食品生産化学 | 〃 |
| Durikovic, Roman | ロマン | チェコスロバキア | 1966 | 電子計算機工学 | 〃 |
| Khedara, Abdelkrim Rabah | ケダラ | アルジェリア | 1966 | 生物学 | 〃 |
| Omar, Mohamad Nor | モハマドノア | マレーシア | 1957 | 土木工学 | 鳥取大学 |
| Perez Lara Y Hernandez Miguel Angel | ミゲル | メキシコ | 1959 | 土木工学 | 〃 |
| I Dewa Made Subrata | イデワ | インドネシア | 1962 | 農業工学 | 島根大学 |
| Nguyen, Lap Van | ラブバン | ベトナム | 1959 | 地質学 | 〃 |
| Win, Win Maw | モ | ミャンマー | 1959 | 微生物・免疫学 | 島根医科大学 |
| Ioventino, Claudio Pessoa | クラウディオ | ブラジル | 1969 | 工学 | 山口大学 |
| Bracho, Victor Edgardo | ピクトル | ベネズエラ | 1961 | 医学 | 〃 |

第十五期 (1992年10月～93年3月) (18人)

| 氏名 | クラスでの呼び名 | 国 | 生年 | 専攻 | 専門教育 |
|----------------------------|----------|----------|------|---------|------|
| Hayworth, Holly Christine | ホリー | アメリカ | 1970 | 社会学 | 広島大学 |
| Peiris, Joseph Jude | ジョゼフ | スリランカ | 1960 | 数学 | 〃 |
| Burza, Wojciech | ブルザ | ポーランド | 1962 | 園芸化学 | 〃 |
| Hernandez Barrera, Antonio | アントニオ | キューバ | 1964 | 数学 | 〃 |
| Javed Kausar | カウザ | パキスタン | 1961 | 生物学 | 〃 |
| El-Habel, Fawaz Sobhi | ファワズ | レバノン | 1969 | 土木・建築工学 | 〃 |
| Abboud, Nicolas Joseph | ニコラ | レバノン | 1964 | 電気通信工学 | 〃 |
| Takahashi, Kentaro | ケンタロー | ブラジル | 1967 | 情報科学 | 〃 |
| Dybowska, Brygida Ewa | エバ | ポーランド | 1964 | 園芸化学 | 〃 |
| Pidin, Sergey Urievich | セルゲイ | ウクライナ共和国 | 1958 | 統計学 | 〃 |
| Chaudhary, Iqbal Muhammad | イクバル | パキスタン | 1960 | 農学 | 〃 |
| Ayushiin, Ganbold | ガンボルト | モンゴル | 1960 | 連合農学 | 鳥取大学 |
| Cao, Thanh Xuan | カオ | ベトナム | 1962 | 機械工学 | 〃 |
| Bah, Alpha Mamoudou | バー | ギニア | 1957 | 農林経済学 | 島根大学 |
| Salamanca, Eric Florendo | エリック | フィリピン | 1963 | 生物生産科学 | 〃 |
| Kotey, Ebenezer Neequaye | コテイ | ガーナ | 1961 | 光学 | 山口大学 |
| Frebort, Ivo | イボ | チェコスロバキア | 1965 | 生物化学 | 〃 |
| Ben-Lamine Mohamed Sahbi | ベンラミン | チュニジア | 1968 | 機械工学 | 愛媛大学 |

日本語研修コース関係講師一覧

第十四期（1992年4月～92年9月）

| | | | | |
|-----|--------|-------|------|-------|
| 専任 | 多和田眞一郎 | 中川正弘 | 深見兼孝 | |
| 非常勤 | 北村光孝 | 島田智子 | 水野由美 | 下村真理子 |
| | 橋本敬司 | 松尾 馨 | 太田欽幸 | 林 忠行 |
| | 升島 努 | 山田登志子 | 吉田正晴 | 渡邊 洵 |

第十五期（1992年10月～93年3月）

| | | | | |
|-----|--------|-------|------|-------|
| 専任 | 多和田眞一郎 | 中川正弘 | 深見兼孝 | |
| 非常勤 | 河野智子 | 下村真理子 | 橋本敬司 | 松尾 馨 |
| | 水野由美 | 北村光孝 | 近藤勝彦 | 菅原康弘 |
| | 原 正行 | 藤田耕之助 | 松本堯生 | 山口登志子 |
| | 山本 修 | | | |

日本語研修コース（第十三期）1991年度（十月～三月） 成果報告

| 期 日 | 行事・試験等 | 特別研究指導等 | 備 考 |
|----------------|---------------------|-----------------------------|------------------------|
| 0 10/17 | 開 講 式 オリエンテーション | | |
| 1 10/18 | 面接、発音、ひらがな、 初歩文型 | | |
| 2 10/21～10/25 | | 10/25 原爆資料館・平和公園・青少年センター | |
| 3 10/28～11/1 | | 11/1 映像文化ライブラリー・ 広島城・縮景園 | |
| 4 11/4～11/8 | | | 11/4 公休日 11/5 創立記念日 |
| 5 11/11～11/15 | | 11/15 宮 島 | |
| 6 11/18～11/22 | | | |
| 7 11/25～11/29 | | | |
| 8 12/2～12/6 | 中間試験 | | 「専門用語解説」開始 |
| 9 12/9～12/13 | | | |
| 10 12/16～12/20 | 期末試験 | | |
| 12/24～1/7 | 冬季休業 | | 12/23 公休日 |
| 11 1/8～1/10 | | | |
| 12 1/13～1/17 | | | 1/15 公休日 |
| 13 1/20～1/24 | | | 1/24、25 加計町ホームステイ |
| 14 1/27～1/31 | 中間試験 | | |
| 15 2/3～2/7 | | 2/7、8 尾道市 | |
| 16 2/10～2/14 | | | 2/11 公休日 |
| 17 2/17～2/21 | | 2/21 マツダ | 2/22、23 似島合宿 |
| 18 2/24～2/28 | 期末試験 特別講義 | | |
| 19 3/2 | 特別講義 | | |
| 00 3/3 | 成果発表、修了式 | | |

日本語研修コース（第十四期）1992年度（四月～九月） 成果報告

| 期 | 日 | 行事・試験等 | 特別研究指導等 | 備考 |
|----|------------|--------------------|-----------------------------|----------------|
| 0 | 4/15 | 開 講 式 オリエンテーション | | |
| 1 | 4/15～4/17 | | | |
| 2 | 4/20～4/24 | | 4/24 原爆資料館・ 平和公園・青少年センター | |
| 3 | 10/28～11/1 | | 5/1（映像文化ライブラリー） 広島城・縮景園 | 4/29 公休日 |
| 4 | 5/4～5/8 | | | 5/4、5 公休日 |
| 5 | 5/11～5/15 | | 5/15 宮 島 | |
| 6 | 5/18～5/22 | 中間試験 | | |
| 7 | 5/25～5/29 | | 5/29 福山市 | |
| 8 | 6/1～6/5 | | | 「専門用語解説」開始 |
| 9 | 6/8～6/5 | | 6/12 マツダ | |
| 10 | 6/15～6/19 | 前半期末試験 | | |
| 11 | 6/22～6/26 | | | |
| 12 | 6/29～7/3 | | | |
| 13 | 7/6～7/10 | | | 7/11、12 合 宿 |
| 14 | 7/13～7/17 | | 7/17 尾道市 | |
| 15 | 7/20～7/24 | 中間試験 | | |
| | 7/25～8/31 | 夏季休業 | | |
| 16 | 9/1～9/4 | | | |
| 17 | 9/7～9/11 | 特別講義 期末試験 | | |
| 18 | 9/14 | 特別講義 | | |
| 00 | 9/16 | 成果発表、修了式 | | |

C A I - そ の 後 -

多和田 眞一郎
水野 由美
河野 智子
松尾 馨

今回は、第14期(92年4月～92年9月)の「日本語研修生」(16人(注))を対象に行ったC A Iの報告を行う。前回と同じことの繰り返しが多いが、それも実践の積み重ねの過程を示すということで許されるであろう。

授業記録

- 第1回 5月22日(金) オリエンテーション
- 第2回 6月5日(金) オリエンテーション、漢字の基礎1
- 第3回 6月19日(金) 漢字の基礎1
- 第4回 6月26日(金) 漢字の基礎1
- 第5回 7月3日(金) 漢字の基礎1
- 第6回 7月10日(金) 漢字の基礎2

授業過程

前回に準じる。

学習者の問題点

機械になっていないので、トラブルが多い。最初に指導しなければならない。(学習者のミスが多いので少なくするためのプリントを作った)

学習者の感想

- 1) とてもおもしろかった。
- 2) 漢字の勉強になった。
- 3) へん・つくりの説明をC Dプログラムの中に入れてほしい。
- 4) 「絵からできた漢字」の説明を増やしてほしい。
- 5) 文法の勉強のためのプログラムがほしい。
- 6) 画数の多い漢字も、C A Iを使うとおぼえられる。
- 7) C A Iを使うと、初めて日本語を学ぶ学習者は、より簡単に日本語を学べ、よりよ

い結果が生まれると思う。

- 8) 一日中、文法を学習するために、C A Iでも文法練習がしたい。
- 9) C A Iを初めて使ったとき、絵がきれいでカラフルなので、とても楽しいと思った。
- 10) 学習開始から1, 2か月経つと、文法も漢字もとても難しくなってくる。そのため、日本語学習に飽きてくるが、C A Iのクラスはその状況を変えてくれた。とても有益だと思う。
- 11) 漢字は何度練習してもすぐ忘れてしまうが、意味を知ると忘れない。意味や起源を知ることこそ重要である。
- 12) これは最良の学習方法の一つではあるが、機械の中にインプットされた情報しか与えられない。そのため、ある種の助けの知識を与えることはできても、先生から与えてもらう知識にはかなわない。
- 13) C A Iを使う時間が短すぎる。プログラムを終わらせるために、もっと時間を増やしてほしい。

教師側の感想

- 1) オリエンテーションの中には、ひらがな・カタカナ練習が含まれている。これは、視覚・聴覚に訴えるため、文字に慣れていない初期段階では非常に効果的であると考えられる。ひらがなを導入する際にC A Iを用いれば、学習者により一層、「日本語を学びたい」という意欲を起こさせることができるのではないと思われる。次回は、この点に留意して、学習開始時期にC A Iを使わせるようにすることができれば、と考えている。
- 2) 機械に慣れていなかったということも一つの原因であるが、時間が足りない、という感が強い。学習者の中にも、機械を作動させることのほうに気をとられているうちに時間が過ぎてしまった者もある。内容については、漢字の成立ちに非常に興味を示す学習者が多かったようである。ただでさえ覚えにくい漢字であるので、その成立ちと意味を画面で説明してもらおうと、分かりやすく、覚えやすかったのではないだろうか。普通の授業では漢字の学習に多くの時間を裂くことができないので、C A Iの授業でじっくり学習できることは、教師にとってもありがたい。そういった意味でも、もう少し時間的余裕を持ちたい。
- 3) 一般的にもいわれていることであるが、学習項目や速度の個人差に対応できるので、学習者にとっても教授者にとっても非常にやりやすいと思われる。とくに、教室授業の中では文字の認知の訓練まではなかなかできないため、ひらがな・カタカナ・漢字の導入時にC A Iは非常に有効だと考えられる。
- 4) C A Iの漢字のプログラムは、教室授業で使われているメインテキストには準拠し

ていない。そこで、使える時間を多くして、J D（日本語漢字辞書）を使った文字練習を取り入れることができれば、未学習の漢字にも対応でき、さらに有効なのではないか。

- 5) 教室授業と異なり他者の存在を意識しなくてよいためか、リラックスして学習でき、動機づけも高いようである。今後、文法などのドリルも取り入れられれば、より一層の効果が期待できよう。また、教授者と学習者が1対1で対話しながら学習が進められるような環境をつくる必要があると思われる。

コンピューターに関する問題点

- 1) 手書きタブレット及び画面が小さすぎる。
- 2) 手書きタブレットによる文字入力の手順が面倒。
- 3) 手書きタブレットに一文字ずつ書くのは、能率がよくない。

日本語ソフトに関する問題点

- 1) 学習し終えたところ、また、学習したくないところをスキップしにくい。
- 2) 学習範囲の細かい選択がしにくい。
- 3) 仮名練習は少々丁寧すぎる感じがある。全くの初心者にはよいが、そのうち退屈してしまう学習者も多い。
- 4) 「感じの練習1・2」についてはほとんどの学習者が興味を示していたようである。C A Iで学習した漢字をノートにとり、自分で学習していた。
- 5) 特に「漢字の練習」については、学習内容に沿ったワークブック或は参考書のようなものがあるとよいのではないか。C A I学習も予習ができれば、定着の度合もずいぶん違って来るであろう。
- 6) 漢字の学習をする時点で音読みと訓読みが同時に画面に出るため、いつ音読みで読みいつ訓読みなのか分ならず、学習者が混乱してしまう。
- 7) 学習を途中から始める場合、初め英語のナレーションを選択したのにもかかわらず、ナレーションが日本語になる。

今回は、別の視点からの報告ができるはずである。

注) 第14期の「日本語研修生」は19人であるが、3人はプレイスメントテストの結果、日本語中級のクラスで学習した。子機が15しかないので、16人を二クラスに分けて、同じ日に時間を変えて実施した。